

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日:2022(令和4)年 1月 28日

事業所名:ゆらんこサービス種類:児童発達支援事業・放課後等デイサービス

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	公共の場の利用(体育館など)を計画していたが、新型コロナの影響で利用できなかった。少しでもスペースを確保する為に、常設や常備されてある物品を最低限にしている。また、活動中に使用しなくなった机やいすにを随時、片付けている。新型コロナのこともあり、2階も利用しながら、分散して過ごす方法も取る。また、身体を使った時間においては、安全を守りながら、外(施設敷地内)での活動に切りかえている。	はい35 どちらともいえない (以下「どちら」と称する) 5 身体を動かすには狭いと思う	根本的な施設の設計改善も含め、法人で検討事項に挙げている。それまでに、新型コロナの感染状況も踏まえながら、公共の場の利用も再度、検討実施していく。
	2 職員の適切な配置	配置基準のみでなく、利用される児童に合わせて、職員を配置。送迎業務もあり、慌ただしいこともある。	はい37 どちら3 ・そもそもあまり配置数が決まっていることを知らない	現状の取り組みを継続する。各職員の専門性をより高めていく。また、業務改善に努めていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	現状は、物品などを用意したり、個々に合わせた対人での支援で補っている。玄関の手すりの設置などの目に見えたバリアフリーを検討していく。	はい22 どちら13 いいえ5	現状の取り組みを継続しながら、現実的に配置や修繕が可能かどうかを検討していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	通所前、降所後の清掃の徹底。また、日々の打ち合わせや職員会議にて不備などがあった点について職員間で共有し、改善をしている。利用児の作品や季節感を取り入れた壁面、誕生児などの掲示などを職員が毎月制作し、掲示して児童を迎えている。	はい38 どちら2 ・見れないので、あまりわからない ・泡ハンドソープにして欲しいです	現状の取り組みを継続する。また、物品の不足(利用児に合わせたサイズのもの数の確保)も、整備していく必要性が見えてきている。駐輪場などの新たな利用場所についても、整備していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	職員会議や日々の打ち合わせまた振り返り時にて、議論、検討を重ねている。また、引き続きノートを活用しながら、各職員の気づきを共有し、検討するようにもしている。		現状の取り組みを継続する。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者による外部評価は受けていない。		法人にて検討していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	年1回の法人研修を実施 施設においても、研修年間計画を立て、実施している(新人研修・障害について・人権擁護・自己研鑽をテーマに) 外部研修については、今年度はコロナのこともあり、オンライン開催のみ参加。		現状の取り組みを継続する。その中で、各職員に応じた研修の充実を、より図る。また、事業所内での目標をねらいに研修を行う。オンラインなどの活用も継続していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	定期的に現在の子どもの実態を把握することを目的に担当者会議を開き、アセスメントを行っていると共に、保護者からの要望の聞き取りをおこなっている。利用児本人も交えながら、面談をする機会も取り入れている。	はい40	より保護者や本人の思いが気軽に話ができる場所や時間を作っていく
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	利用児に合わせた、活動内容(個別および集団)を組み合わせながら、計画を立てている。	はい40 ・昼食も見たい	現状の取り組みを継続する。コロナ感染拡大予防を基本にしたがの療育を行っている。非日常が続いている為、随時保護者にもしっかりと説明、同意を求めていく。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	目標および具体的な支援内容を記載して作成している。	はい40	現状の取り組みを継続する。
適切な支援の提供(続)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	サービス担当者会議・職員会議・日々の打ち合わせにて支援方針や方法を確認し、現場に臨んでいる。	はい38 どちら2	現状の取り組みを継続する。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	さまざまな職員が、活動プログラムの立案を担当し、企画→検討→試行→検討→実施のサイクルを職員全体で行い、プログラムを決定している。また、当日の打ち合わせ時に、必ず確認、意見交換を実施している。		現状の取り組みを継続する。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	1日の生活の活動量などの生活状況を保護者と確認しながら、目標を設定している。また生活リズムも視野に入れながら各利用児の目標にしていることに合わせてプログラムを立案している。		より利用児に合わせた活動が提供できるように検討していく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	季節の行事の取り入れ、家庭ではなかなか経験できないことなどを、週間ごとにメインの活動内容として企画し、行っている。また、家庭でも引き続き取り組めるような活動も視野に入れて展開している。	はい39 どちら1 ・いつも持ち帰ってくる手作り教材などは可愛らしく、毎回異なる物でよく工夫されていると思う ・いつも子どもに合わせて、いろいろな工夫で取り組んで頂き、ありがとうございます ・楽しみながら取り組めるように色々工夫されている。手先を使った細かい制作活動もトレーニングになっている。作った作品もかわいく仕上がっているの、家で飾っています。	さまざまな視点を持ちながら、活動内容を提案していけるように取り組んでいく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
き)	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	受け入れ前に、必ず打ち合わせを実施。その際、利用児についての情報共有や前回利用時の様子を振り返り、当日の支援について出勤職員に伝達、確認を行っている。		現状の取り組みを継続する。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後の記録記載時に行う。業務上や職員の勤務時間上、それが難しい場合もある。次の日の打ち合わせ時に振り返りや申し送りを行い、不足分においては、職員会議にて行う。		現状の取り組みを継続する。より、振り返り時間をしっかりと確保できるように取り組む。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	個別の記録に日々の様子を記載し、そこから検討していく課題を抽出している。また、職員間で情報交換をし、記録漏れ防止と、さまざまな視点からの記録になるよう留意している。		現状の取り組みを継続する。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	定期的なモニタリングを実施。保護者に対しても、モニタリングを書面にして説明。見直しにつなげている。		現状の取り組みを継続する。
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	基本的には、児童発達支援管理責任者が出席している。必要に応じて、担当職員も同席している。		現状の取り組みを継続する。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	相談員と情報交換を行いながら、支援の目的などを確認し、支援をしている。		現状の取り組みを継続する。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	児童発達支援事業にて受け入れ実績あり。母子通所ということもあり、保護者が医療的ケアをしながら利用して頂いている。現状として、保護者から連絡を頂くことになっている。		今後は、保護者を通して医療機関とも情報交換ができるような体制も整えていく。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	保護者や相談支援員に連絡調整や必要性を伝え、サービス担当者会議を開催。在園時の様子や入園、入学に向けての情報交換を行っている。		保護者、相談支援員を軸に、より連携していけるようにしていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	現在、小学校6年生までの受け入れのみであり、障害福祉サービス事業所への移行がない。小学校卒業時には、新たな事業所への引継ぎなどを行っている。		現状の取り組みを継続する。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修の情報がある際は、随時参加を検討している。		専門機関での研修を受ける機会を増やしていきたい。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	今年度は、近隣の小学校学童保育所との交流企画を計画していた。しかし、コロナの感染拡大、緊急事態宣言の発令があり、中止となった。企画自体は、中止となったが、学童保育所に利用児の作品をプレゼントなどを行った。	はい11 どちら20 いいえ9 ・個別ではない為、子どもたちとの交流する機会はあり。	コロナの感染状況を踏まえながらではあるが、次年度も学童保育所との交流を企画していく
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域行事への参加は実績もあるが、今年度はコロナの為、そのような行事が中止になり、参加できていない。事業所自体も、同様に中止や規模縮小になっており、実施できていない。		事業所より、地域に向けての企画もしていく。また、交流の機会の情報収集をしながら、積極的に参加していく。
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時において説明を徹底。また説明の為の紙面を用意。	はい40	現状の取り組みを継続する
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	懇談の機会を取り、説明を行っている。	はい40	現状の取り組みを継続する
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施		はい28 どちら9 いいえ3 ・そもそも、プログラムの意味がわからない	
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	児童発達支援では、保護者通所になっており、実際に共に時間を過ごしながら支援の方法や子育てについての助言や実際に伝えている。放課後等デイでは、連絡帳や電話相談及び面談の機会を取るなどして徹底や支援を行っている。	はい40	より充実した保護者への支援ができるように研修の機会や職員とのやり取りの確保、また情報提供を行っていく。 上記のことを、職員と共有もしっかりとしていく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施		はい40 ・いつも話を聞いて下さり、相談に乗って下さいます。労いや励ましの言葉かけて下さるので、とてもありがたいです。	
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	今年度は、保護者向け研修を外部講師を迎え、行った。また、定期的な研修連続研修を計画していたが、コロナのことがあり、全てが中止。	はい15 どちら17 いいえ8 ・お母さん方との交流する場が欲しいです ・コロナのことがあるので、仕方ないと思う	定期的な保護者同士でのやり取りができる場所また、気軽に相談し合える機会などを作っていけるように検討する。分散で行うなどしていく。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	保護者からの苦情等などがあった場合は、施設全体で周知また対応を検討し、改善していつている。	はい36 どちら4	現状の取り組みを継続する。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	今年度は、LINEなどのツールも取り入れも行いながら、直接的なやりとり、連絡帳での情報伝達や意思疎通を行ってきた。また児童に対しても、ホワイトボードや紙面を利用して文字で表す、意思疎通を図るものとして利用している。	はい39 どちら1	現状の取り組みを継続する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月の活動予定の発行、定期的な通信の発行を行っている。	はい40	現状の取り組みを継続する。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	職員への個人情報保護についての認識を徹底。保護者に向けては、個人情報使用同意書及び写真掲載の同意書を取って取り扱いに注意している。掲示物などにも、配慮している。	はい38 どちら1 わからない1	現状の取り組みを継続する。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	法人でのマニュアル策定に参画し、感染症対応マニュアルを策定。職員会議にて全職員に周知及び、事業所のみでの対応についても検討した。他のマニュアルについても同様に策定していく。	はい38 どちら2	今後も周知徹底と職員間での検討を積み重ねていく
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	火事、地震などの非常事態、災害に対しての、さまざまな形態での避難訓練を行ってきた。	はい38 どちら2	さまざまな場合を想定した訓練を計画、実施していく。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	日々の支援の中での振り返りを行う。必要であれば、個々の職員に応じて振り返りを行っている。事業所内においても研修実施。法人全体においては、人権擁護や虐待研修を行う。また、外部研修がある時には、参加してもらうようにしている。		現状の取り組みを継続する。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	法人で身体拘束禁止に関する施設内取り決め事項を決定。また、やむを得ない場合がある時は、保護者と懇談での了解を取り、支援計画に記載。		支援方法の検討もしながら、今後も取り組んでいく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	アレルギーの調査書を保護者に年度初めに記載してもらい、必要であれば診断書を添付してもらう。また、保護者を通じて、医師に確認してもらうことや施設での活動を事前に説明し、活動の許可を取っている。		現状の取り組みを継続する。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	引継ぎノートに各職員が、日々気が付いたことを記載し、出勤時に確認。また、事例集を作成。毎回の職員会議で、議題に必ずヒヤリハットを実施。全職員で検討し、改善を図っている。年度初めには、昨年度に出たヒヤリハットを全職員で確認している。		現状の取り組みを継続する。 職員間で、より共通した意識を持てるよう、取り組む。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	1 子どもは、通所を楽しみにしているか	子どもたちの生活の中で、知らないことにもたくさん挑戦している(物事の経験だけでなく、気持ちの折り合いなどの経験も)その中で、＝楽しみということばかりではないだろうが、生活する力につながるように展開している。	はい32 どちら8 ・嫌がっていないので、楽しみにしていると思います ・「ゆらんこさん、楽しい」といつも言っています	現状の取り組みを継続する。 コロナの感染状況を踏まえ、さまざまなプログラムを考えていく
	2 事業所の支援に満足しているか		はい39 どちら1 ・成長を感じる日々で嬉しく思っています ・食育をして頂きたい	現状の取り組みを継続する。 コロナの感染状況を踏まえ、さまざまなプログラムを考えていく
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも丁寧に関わって頂き、ありがとうございます。コロナが収まれば音楽で歌を歌ったりして頂けたらありがたいです。</li> <li>・どうしても身体を動かす機会が少ないので、室外に行ける機会がもう少し増えれば嬉しい。交通ルール等も含めて学べる機会があればと思う。</li> <li>・いつもありがとうございます。子どもより私の方がゆらんこさんに頼りっきりになっています。心強く、感謝しています。小学校生活も残り少なくなって淋しいです。本当に中学校に行っても通わせたいくらいです。</li> <li>・いつもたくさんの学び、支援を頂いています。本当にありがとうございます。</li> <li>・早く前のように一緒にイベントを楽しめるようになりたいです。あと、普段の様子も参観できる機会があれば、うれしいです。</li> </ul>			